

## 初診の遷延性・慢性咳嗽患者における器質的疾患の検討

細井慶太、原 彩子、菅 泰彦、出上裕之、原 聡志、木下善詞、関 庚燁  
市立伊丹病院 呼吸器内科

【背景】「咳嗽に関するガイドライン」に基づいて、咳喘息、アトピー咳嗽などの疾患が注目されている。しかし、これらの疾患を考える前に器質的疾患を除外しなければならない。地域の中核病院で初診の遷延性・慢性咳嗽患者において、器質的疾患を持つ患者がどの程度存在するかという報告は少ない。

【目的】初診の遷延性・慢性咳嗽患者における器質的疾患の割合とその臨床像を調べる。

【対象と方法】2006年4月より当院呼吸器内科を受診した遷延性・慢性咳嗽患者で電子カルテで詳細な問診が得られた168例。詳細な問診と診察に加え、必要に応じて胸部レントゲン・CT検査、肺機能検査、喀痰検査、血液検査を施行し器質的疾患の有無を検討した。

【結果】168例中、器質的疾患患者は35例（20.8%）であった。その内訳は肺炎・気管支炎19例（11.3%）、DPB2例（1.2%）、間質性肺炎4例（2.4%）、気管支喘息・COPD・ABPA5例（3.0%）、肺癌1例（0.6%）、心不全3例（1.8%）、PLCH1例（0.6%）であった。

【結論】成人の初診時の遷延性・慢性咳嗽患者において器質的疾患も十分考慮する必要があると考えられた。